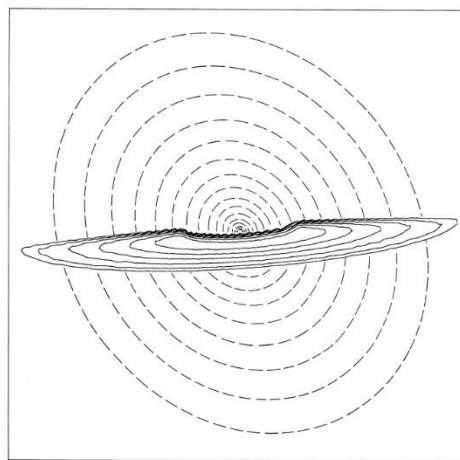


ぎんが NGC5128銀河

春の星座ケンタウルス座は一等星を2つ持つ大きな星座ですが、日本からは一部だけしか見えないので、星空解説でもあまり取り上げることはありません。しかし、この星座には、興味深い天体が多く見られます。NGC5128 銀河もその1つです。

この天体は、ギャラクシティにある口径10 cmの望遠鏡でも明るく見える星雲状の天体に暗いスジが入っている様子を見ることができます。北半球にあれば、ニックネームをつけることが好きな観測者によってユニークな名前が付けられたのですが、あまりにも変わった形だったせいか未だに名前がありません。(誰か名前を付けてみませんか。)



NGC5128 銀河の姿:左は LaSilla 天文台 Image Credit:ESO、右は Tubbs, A.D.(1980) Ap J 241, 969 による2つの銀河衝突の模式図

この天体は、距離が1000-1600 万光年、大きさ 6 万光年の中規模の銀河ですが、他に類を見ない形をしています。長い間正体不明でしたが、今では、2つの銀河が食い込むように衝突している姿ではないかと考えられています。1940年代以降、強力な電波源であることが分かり、大量の星が新たに形成されているらしいことが分かり、今では数万光年にも及ぶジェットが存在(銀河中心のブラックホール)も知られるようになりました。銀河同士の衝突がいかに激しい現象であるかがうかがえる、注目を浴び続ける天体です。

2022年3月7日記 (解説員:田部 一志)